

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 伊東国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

伊東市及びその周辺に在住する日本語を母語としない住民を対象とし、日本語の速やかな取得を図るとともに その生活を支援する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
6月1日	黒川彰宏 水口進吾 堀越卓子 鈴木 健支	日本語教室開設 受講者募集 講師登録 講師養成	文化庁委託事業採択 開催期間の確認 講師確認(月1回ミーティング) 講師養成講座開設
9月10日	黒川彰宏 水口進吾 堀越卓子 鈴木 健支 オブザーバー 教室室長 大武茂	上期教室内容報告 講師生徒の参加 指導内容検討	上半期の生徒出席報告 講師の参加状況 講師ミーティング報告 生徒指導の問題点 追加教室の提案
1月18日	黒川彰宏 水口進吾 堀越卓子 鈴木 健支 オブザーバー 教室室長 大武茂 伊東国際交流協会 会長 白井 隆	日本語教室事業経過 下期教室内容報告 講師ミーティング報告	上期 生徒出席報告 講師の参加状況 講師ミーティング報告 国際交流フェスタ日本語スピーチ選考

【写真】(会議風景の写真を1~2枚参考に添付して下さい。)



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 伊東国際交流協会「日本語教室」
- ② 開催場所 伊東市松川町太田ビル 会議室
- ③ 学習目標 初級 中級 上級と生徒のレベルにあわせ指導
日本語の日常会話と理解力、定常的に日本語能力検定試験の受験者、合格者がでるような教室をめざした
- ④ 使用した教材・リソース みんなの日本語 初級 I II
漢字マスター 3級漢字300 2級漢字1000 1級漢字2000
日本語能力試験 対策項目整理 1級 2級 3級 他
- ⑤ 受講者の募集方法
地元ケーブルテレビ コミュニティーFM 新聞掲載 当会の会報
(※どこでどのような媒体を使って募集したかを記載。なお、募集のチラシ等があれば添付すること。)



- ⑥ 受講者の総数 93 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 147時間 (全 98 回)

⑧日本語教室の具体的内容 (伊東国際交流協会日報を添付します)

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
①	0:00~0:00	○時間	○人	〇〇国・〇〇語 (○人) △△国・△△語 (△人)	教授者○人 補助者○人	〇〇〇〇学習 〇〇教材使用

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)



①左記の写真は一般的なある日の教室の風景です。普通は先生一人に生徒一人のマンツーマン方式で授業していますが、この日は生徒数が先生より若干上まわっていたので、二人の生徒を受け持っている先生もおります。



②この写真は上級レベルの生徒を「上級で学ぶ日本語」のテキストを使いながら授業している風景である。授業では効率よく学習効果を高める為ホワイトボード、国語辞書、電子辞書などを使いながら、又聴解学習ではラジカセなどを使いながら進めている。



③左の写真は市内の中学生の国際理解を深める為、学校側から依頼をされたもので、日本語教室で学習している外国人と中学生の交流会を写したものである。ここでは日本語教室の生徒の国別に何組かのグループに別れて、中学生たちが各国の文化、習慣などについて学習した。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
無し	〇〇語(〇〇国)	〇〇年	〇〇回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
無し	〇〇協会主宰	日本語教育能力検定試験合格	〇〇回	アドバイザー

4 事業に対する評価について

- ① 当初の学習目標の達成状況
- ② 学習者の習得状況
- ③ 日本語教室設置運営の効果, 成果
- ④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等
- ⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)
 - a. 現状
 - b. 今後の課題
 - c. 今後の活動予定, 展望

③その他参考資料

4. 事業に対する評価について

1) 当初の学習目標の達成状況

- ① 受講者数、年間延べ受講者数、1回あたりの平均出席受講数 (本年度実績)

- ・受講者数： 93人
- ・年間延べ受講者数： 661人
- ・年間延べ受講時間： 991H
- ・1回あたりの平均出席受講者数： 6.74人

- ② 開催回数、年間延べ開催時間数 (本年度実績)

- ・開催回数： 98回
- ・年間延べ開催時間数： 147H

- ③ 教師数、年間延べ教師数、1回あたりの平均出席教師数他 (本年度実績)

- ・教師数： 21人
- ・年間延べ出席教師数： 612人
- ・1回あたりの平均出席教師数： 6.24人

2) 学習者の習得状況

- ① レベル別受講者数

初級者： 62名 延べ受講時間数： 609H

中級者： 25名 延べ受講時間数： 229H

上級者： 6名 延べ受講時間数： 153H

3) 日本語教室設置運営の効果、成果

- ① 初級者は「みんなの日本語」のⅠ及びⅡの習得を目標としているが、このクラスにおける学習者は学習に対するモチベーションも強く略全員についてその目標とされているところまでの達成ができた。

またこの初級者のうちから、本年度は「日本語能力検定試験」3級の受験者を2名送り出したが内1名の合格者を出すことができた。

- ② 中級者においては「中級から始める日本語」のテキスト通読及びその演習問題の解答及びそれを中心に漢字1000語程度の読み、書きの習得を目標としているがこれについても略その目標までの達成が得られた。

またこの中級者のうちから本年度は「日本語能力検定試験」2級の受験者を5名送り出したが、内1名の合格者を出すことができた。

- ③ 上級者においては「上級者のための日本語」のテキストの通読及び過去の「日本語能力検定試験」1級の試験問題の演習をしながら自らの日本語能力を高める学習を行っているが同様にほぼ目標を達成することができた。

またこの上級者のうちから本年度は「日本語能力検定試験」1級の受験者を4名送り出したが、わずかなところで合格者を出すまでに至らなかった。

4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

伊東日本語教室は伊東国際交流協会の活動の一つとしてその働きを行っているが、このことにより日本語教室としても積極的にその上部組織である交流協会の諸事業、行事に参加している。その主な参加行事を下記にあげると

- ① 伊東温泉按摩祭： 毎年20数名の参加者を送り出しているが本年度は生憎の雨天のため中止になったため不参加になってしまった。
- ② 伊東温泉花笠踊り：伊東市内の各団体がチームを組みチーム毎に参加するものであるが本年度は「チーム国際交流」として生徒12名、会員18名の参加となった。
- ③ 南中学国際理解授業の参加：市内中学校の生徒の国際認識教育の一環として行われるもので市内在住の外国人が自国の文化、習慣、生活について生徒の前で自ら紹介する授業である。本授業に日本語教室のルーマニア、中国、インドネシアの生徒4名が参加した。

④ 国際交流活動事業の参加：その他教師だけの参加であるが、「2010年日本語ボランティアセミナー」「伊東、沼津国際交流協会意見交流会」等国際交流活動のイベントに積極的に参加し国際交流活動に対する意識の啓蒙、活発化を図っている。

⑤ 国際交流フェスタ：これは本協会の主催により毎年行われているもので市民の国際交流の啓蒙を促す目的で世界各国の歴史、文化などを国毎のブースを開いて紹介したり、世界各国の踊り、音楽を会場ステージで開くものである。この行事の中で日本語教室に出席している生徒の日本語によるスピーチもまた恒例のプログラムの一つとなっている。本年は中国の研修生と日本人と結婚したフィリピン人の女性が日本の自然、文化に対する感想などを率直な印象で話してくれ、楽しい交流の場を作ってくれた。

以上主に伊東国際交流協会の事業に参加することにより、一般市民と伊東市内在住の外国人との間の交流を通じてお互い文化の理解、友好融和を図り草の根的国際親善の歩みを進めて行こうとしている。

5) 改善点、今後の課題について

a. 現状

・現状の一番の問題点は生徒の出席率の向上対策と生徒数の減少対策である。

私たちの日本語教室において最も多い生徒は市内のホテル等に來ている中国人研修生及び日本人を夫に持つ外国人の妻である。この中で外国人妻については日本語習得のモチベーションが比較的高く家族の理解もあるのでその出席率は高めの方に安定しており、問題は少ない。しかし一方中国人の研修生については、その仕事から季節的変動が大きく忙しいときはほとんど出席できないのが現状である。今までは研修生は来日当初は教室に來ているが、2、3ヶ月すると出席率が低下してしまったり全く來なくなってしまうたりしている。彼らの日本語能力は比較的高く初級のレベルについてはほぼそれをマスターしていると言えるが実際その語学力を生かして実社会に役立てようとするにはこれからという段階であるからせつかく日本に來ている間にそれを向上させなければ来日した意味も半減するといえる。

・もう一つは教師の日本語教育能力の不足についてである。私たちの日本語教室の教師は従来100%のボランティアとしてその仕事を果たしてきた。そのためとも言えないが正規の日本語教育の資格なり能力を持った教師は正直のところ

わずかであるということが言える。そもそも日本語の教育界では日本語ができるものであれば、誰でも日本語を教えられるものでは決してないと言われているのが常識であり、誰しも認めているところである。これからは教室の教師陣の質的向上を図らなければならない。

b. 今後の課題

上記の問題点について以下の課題を考えている。

- ・ 中国人研修生の出席率向上については直接雇い側であるホテル等の担当者に交流協会の理事、あるいは教室の運営委員等が訪問し研修生の語学研修についての協力をお願いする。そのためには最低でも教室に参加できる時間の確保、及び勤務シフト等の工夫をお願いし、勤務と教室開催の時間が重ならない等していただく。また現在教室に参加していないホテルがないか調査し、あれば参加をお願いするというような従来あまり積極的にしなかった教室のPR活動、営業活動を進める。
- ・ 教師陣の日本語教育能力の向上については本年「みんなの日本語」の科目にそって第25課まで講習会、勉強会等を催しながら進めてきたが、これをさらにすすめ来年度は26課から50課までの学習項目について教師として心得ておかなければならない文法事項、語彙力、教え方のポイント等を通してその教育能力を高めるよう努力する。

c. 今後の活動予定、展望

・ 今後の活動予定

- ① 従来生徒の学習意欲に対して教室として十分に対応できなかったこと、時間数の不足、教材の不足、教材機器の不足等についてさらにできることを検討し生徒の学習ニーズに十分対応した体制を組みたい。時間数の不足については従来木曜日の午前一回、午後一回の授業に月曜日午前の時間を加え、延べ時間を増やすと共に従来の木曜日に都合がつかなかった生徒に対しても学習の場を与えることとする。
- ② 本年の日本語教師養成、研修勉強会にまた新たに新教師が何名か誕生したが、これらの新教師にも日本語を教える機会を与えるために生徒と先生の組み合わせを教室開催ごとに固定化して、教師、生徒のつながりを強くするとともに次回授業の出欠を確認し生徒、教師の教室出席率を向上させる。
- ③ 授業だけの活動だけではなく生徒の家族を含めた交流活動までを視野に入

れた親睦活動（一日ハイキング、料理教室、市内旧蹟めぐり等）を行う。

④ 定期的に日本語能力検定試験の受験者、合格者がでるような教室をめざす。

日本語教室の活動



FM 伊東なぎさステーション生放送中



伊東国際交流フェスタ 日本語スピーチ



伊東花笠踊り参加 パーティー



日本語教室の生徒と先生



中学校国際理解教室へ日本語でお国自慢



授業風景